

は
ぐくむ
vol.70
2022年 1月号

あけまして
おめでとう
ございます





医療法人徳洲会吹田徳洲会病院
病院長 金香充範

新年あけましておめでとうございます。

当院は第6波を見据えて、コロナ患者もしっかり診ながら一般診療も十分行えるよう、2月にプレハブのコロナ用外来と病棟を職員駐車場に設置いたします。地域の皆様に安心して受診して頂ける病院を目指したいと思っております。本年もよろしくお願いいたします。



介護老人保健施設吹田徳洲苑
施設長 酒井敬

あけましておめでとうございます。当苑は病院内に併設しており、円滑に医療を受ける事ができ、治療の継続が必要な方も安心して入所可能です。重度の疾病やお看取り目的の方も利用され、多様性に富んだ施設です。本年もどうぞご利用ください。



看護部長 崎山昌代

新年あけましておめでとうございます。

今年はコロナ対策がどうなっていくのか予測もつきません。その中でも、私たち看護師は目の前の患者様とご家族の立場に立って、何を行うべきか真剣に考えかかわって参ります。宜しくお願い致します。



事務部長 泊谷壽也

植嶋事務部長後任として着任してから早1年4か月、就任直後に新型コロナウイルスが猛威を振るいご挨拶を控える状況が続きました。改めて宜しくお願い申し上げます。本年は寅年、虎の様に何事にも恐れず挑戦する年にしたいと思います。

謹賀新年



副院長 北田文則

当院も8年目を迎え、全科合わせて、がん治療に取り組んでいるところです。

手術、化学療法、放射線治療はもとより、特にロボット手術・腹腔鏡・胸腔鏡手術による低侵襲手術、がん遺伝子治療、緩和医療を更に充実させていきます。



副院長 公文啓二

明けましておめでとうございます。本年は36年に一度の五黄の寅年です。皆様

の益々のご発展・ご多幸を祈念します。私共はチーム医療を通じて最良の医療提供に努めます。ご指導・ご鞭撻よろしくお願い申し上げます。



副院長 眞野富也

2021年もコロナに明け暮れましたが、ワクチン接種もスムーズに2回終了し、

3回目のブースター接種が行われています。新しい内服治療薬も今年は使用できそうです。コロナを憂えず、懼れず皆で頑張りましょう。



副院長 高橋俊樹

明けましておめでとうございます。我が国の新型

コロナ感染症の状況は現在かなり落ち着いていますが、第6波到来に備えつつ、今年も個々の患者様の病状、背景に寄り添った最善の診療を行ってまいります。本年も宜しくお願い致します。

謹賀新年

地域包括ケア病棟のご紹介

患者様・ご家族の幸せが医療のめざすゴール

地域医療科 部長 辻 文生



かつて医療がめざしていたゴールは患者様の延命でしたが、昨今は患者様の生き方を重視した「健康寿命の増進」や「いかに幸せな人生を送るか」という考え方にシフトしています。私は、病院と患者様、そして地域をつなぐ「地域包括ケア病棟」での人と人との関わり方を通じ、いかにして患者様や患者様に関わる人、支える人が「幸せになれるか」を追究しています。

多様なニーズに沿うアプローチ

地域医療科 医師 中野 厚生

一人ひとりの患者様に、これだけ多くの専門職種が主体的に関与し協働するのが当病棟で初めて経験しました。全職種が参加する多職種カンファレンスでは、それぞれの視点で患者様の在宅復帰後の課題を挙げて検討するなど、大きな力になっています。患者様・ご家族様には様々な希望やニーズがあるので、医師として皆様の期待に沿ったアプローチをしていきたいと思えます。



歯科医師の視点から医療の質向上に

歯科口腔外科 医師 西澤 千晶

歯科医師や歯科衛生士は、患者様の嚥下障害や口腔ケアに係る機会が多いのですが、私たち専門家の視点で食形態について提案したことを管理栄養士さんが直ぐに取り入れて下さることもあります。また、嚥下機能の向上には言語聴覚士さんに介入して頂くケースもあり、「医療の質」向上につながるチーム医療の取り組みは、私たち歯科医師にとって貴重な体験です。



おひとり
チーム医療
すべき役割
ば自然と絶
となり、困
い、最適解

傾聴とコミュニケーションを何よりも大切に

看護師(病棟看護責任者) 増田 裕美

患者様・ご家族様が安心・納得されて在宅に復帰して頂くのに、どのような対応が必要か、患者様の近くで寄り添う機会の多い私たち看護師がチーム医療の「扇の要」と認識しケアに関わっています。意思を伝えるのが難しい患者様や、ご家族様が現状、どのような思いなのかを常に傾聴し、時には代弁する等、コミュニケーションを大切にしています。





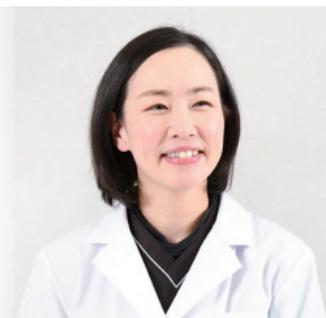
多職種の意見を服薬指導・管理にいかす

薬剤師 田畑 祐葵

私たち薬剤師は患者様に寄り添う時間が限られますが、当病棟の多職種カンファレンスでは様々な職種から服薬状況等の情報・意見を複眼的に得られます。他の専門職の情報も参考にし、服薬指導・管理の方向性を検討しているうえ、医師も患者様に適切な減薬調整の取り組みに積極的に関与して下さっています。

患者様の可能性を考えて

管理栄養士 遠藤 知津



当病棟での管理栄養士の役割は、『患者様の人生を、食や栄養管理でサポートすること』だと思います。多角的な視点でより円滑に退院へ導き、その後の患者様の可能性が少しでも広がるよう、これからもチームの一員として臨んで参ります。退院された後でも、遠慮なくお声がけください！



患者様の生活や人生が最優先

理学療法士 國生 満

当病棟では在宅復帰や退院後の生活への支援を重視し、実際の生活に即した患者様の身体の動きを見てリハビリを行っています。大切なのは患者様の生活や人生がどのようなものであるかですので、多職種と連携し「病気を診るよりも、人を診る」視点でアプローチしています。



の患者様を、多くの専門職が支える
療では、スタッフそれぞれが自分が成
を自覚することが重要です。そうすれ
まぎ目のない「グラデーションな組織」
困難なケースでも全員が知恵を出し合
へと向かいます。

できるだけ理想に沿う現実的な着地点へご支援

メディカルソーシャルワーカー 山本 大輔

希望される退院先へとつなぐことが私たちメディカルソーシャルワーカーの仕事です。時にはご希望とご提案にギャップを感じられるケースがあるかも知れませんが、できるだけ理想に沿える現実的な着地点へのご支援できるよう努力しています。



当院の地域包括ケア病棟が目指すもの

当院の地域包括ケア病棟が目指すのは患者様が「その人らしく幸福な人生を過ごして頂く」ことに尽きます。勿論、患者様一人ひとりの価値観は異なり、幸せのあり方も多様です。一人の患者様に様々な専門職種が関わり、上限60日間の入院期間の中で、多様な視点から患者様・ご家族様の生活や人生を見つめて、退院後の「最大に幸福な生活」の継続という Goalに導くための支援をさせていただきます。医療現場では各専門職が常に情報交換を重ね、お互いの役割を理解しながら、足りない部分を相互に補完して、その方に合った最適の医療と生活支援を実現します。多職種の紡ぎ出すグラデーションにより、患者様の行動変容をチームで促していくのが特徴です。入退院前後においても、地域医療センターの医療・介護連携室、入退院支援チーム、メディカルソーシャルワーカー、そして訪問看護が患者様・ご家族様を多面的にサポートします。

地域包括ケア病棟 他院からの入院の流れ(概要)

- | | | |
|--------|------------------------------|---|
| step 1 | 入院適応事前確認 | まずはかかりつけの病院・クリニック・ケアマネジャーの方を通して医療介護連携室宛にご相談ください。お送りいただいた情報をもとに地域包括ケア病棟への入院適応について判断いたします。 |
| step 2 | 面談日決定 | 面談日時について、かかりつけの病院・クリニック・ケアマネジャーへご連絡いたします。 |
| step 3 | 外来面談
地域包括ケア病棟
への入院可否決定 | 患者様・ご家族様のより細かいニーズを聞き取るため外来面談を行います。
患者様ご本人が来院できない場合は、ご家族様のみでご面談を受けていただくこともできます。ご家族様面談の場合は、面談料3,000円(税別/自費)です。ご面談の結果をもとに、地域医療科医師が地域包括ケア病棟へご入院可否を判断いたします。 |
| step 4 | 入院(転院)日決定 | 当院より、かかりつけの病院・クリニック・ケアマネジャーに対しご報告、および入院が決定した方へは入院日(転院)のご相談のためご連絡いたします。 |

※詳細は当院ホームページ(QRコード)よりアクセスの上、「診療科・部門紹介」→「診療科一覧」→「>>地域医療科」にてご確認ください。

